

CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版_追補版
看護学校整備事業 学生寮 建設工事

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版_追補版

■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v2.3.)

スコアシート 実施設計段階

配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質						2.9
Q1 室内環境			0.40			3.5
1 音環境		-	0.15	3.3	1.00	3.3
1.1 室内騒音レベル	-	-	-	3.0	0.50	
1.2 遮音		-	-	3.6	0.50	
1 開口部遮音性能	開口部遮音性能:T-2以上。	-	-	5.0	0.30	
2 界壁遮音性能	-	-	-	3.0	0.30	
3 界床遮音性能(軽衝撃源)	-	-	-	3.0	0.20	
4 界床遮音性能(重衝撃源)	-	-	-	3.0	0.20	
1.3 吸音	-	-	-	-	-	
2 温熱環境		-	0.35	3.3	1.00	3.3
2.1 室温制御		-	-	3.7	0.50	
1 室温	日本住宅性能表示基準「5-1断熱等性能等級」における等級6相当以上である。	-	-	3.0	0.63	
2 外皮性能	-	-	-	5.0	0.38	
3 ゾーン別制御性	-	-	-	-	-	
2.2 湿度制御	-	-	-	3.0	0.20	
2.3 空調方式	-	-	-	3.0	0.30	
3 光・視環境		-	0.25	3.6	1.00	3.6
3.1 昼光利用		-	-	4.0	0.30	
1 昼光率	2.0%≦[昼光率]	-	-	5.0	0.50	
2 方位別開口	-	-	-	3.0	0.30	
3 昼光利用設備	-	-	-	3.0	0.20	
3.2 グレア対策		-	-	4.0	0.30	
1 昼光制御	カーテンと庇を合わせることでグレアを制御します。	-	-	4.0	1.00	
3.3 照度	-	-	-	3.0	0.15	
3.4 照明制御	-	-	-	3.0	0.25	
4 空気質環境		-	0.25	4.0	1.00	4.0
4.1 発生源対策		-	-	4.0	0.63	
1 化学汚染物質	JIS・JAS規格のF☆☆☆☆をほぼ全面的に採用している。	-	-	4.0	1.00	
4.2 換気		-	-	4.0	0.38	
1 換気量	建築物衛生法を満たす換気量の1.2倍となっている。	-	-	4.0	0.33	
2 自然換気性能	居室面積の1/6以上の開閉可能な窓を確保している。	-	-	5.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮	-	-	-	3.0	0.33	
4.3 運用管理		-	-	-	-	
1 CO ₂ の監視	-	-	-	-	-	
2 喫煙の制御	-	-	-	-	-	
Q2 サービス性能		-	0.30	-	-	2.8
1 機能性		2.7	0.40	2.6	1.00	2.6
1.1 機能性・使いやすさ		3.0	0.57	3.0	0.60	
1 広さ・収納性	-	-	-	-	-	
2 高度情報通信設備対応	-	-	-	3.0	1.00	
3 バリアフリー計画	-	3.0	1.00	-	-	
1.2 心理性・快適性		-	-	2.0	0.40	
1 広さ感・景観	-	-	-	3.0	0.50	
2 リフレッシュスペース	-	-	-	-	-	
3 内装計画	-	-	-	1.0	0.50	
1.3 維持管理		2.5	0.43	-	-	
1 維持管理に配慮した設計	-	3.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保	-	2.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性		2.9	0.30	-	-	2.9
2.1 耐震・免震・制震・制振		3.0	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)	-	3.0	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能	-	3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数		2.9	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数	-	3.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	-	2.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	-	3.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔	ステンレスダクトを使用している。	4.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	-	3.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔	-	3.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性		2.8	0.20	-	-	
1 空調・換気設備	-	3.0	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備	-	2.0	0.20	-	-	
3 電気設備	-	3.0	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法	-	3.0	0.20	-	-	
5 通信・情報設備	-	3.0	0.20	-	-	

3	対応性・更新性		3.2	0.30	2.9	1.00	2.9
3.1	空間のゆとり				2.8	0.50	
1	1 階高のゆとり	階高2.9m以上、3.0m未満。		-	4.0	0.60	
2	2 空間の形状・自由さ	-		-	1.0	0.40	
3.2	3.2 荷重のゆとり	-		-	3.0	0.50	
3.3	3.3 設備の更新性		3.2	1.00		-	
1	1 空調配管の更新性	-	3.0	0.20		-	
2	2 給排水管の更新性	-	3.0	0.20		-	
3	3 電気配線の更新性	ケーブルラックにより仕上げ材を痛めることなく更新・修繕可能	5.0	0.10		-	
4	4 通信配線の更新性	-	3.0	0.10		-	
5	5 設備機器の更新性	-	3.0	0.20		-	
6	6 バックアップスペースの確保	-	3.0	0.20		-	
Q3	Q3 室外環境(敷地内)			0.30			2.1
1	1 生物環境の保全と創出	-	1.0	0.30		-	1.0
2	2 まちなみ・景観への配慮	-	3.0	0.40		-	3.0
3	3 地域性・アメニティへの配慮		2.0	0.30		-	2.0
3.1	3.1 地域性への配慮、快適性の向上	-	2.0	0.50		-	
3.2	3.2 敷地内温熱環境の向上	-	2.0	0.50		-	
LR	LR 建築物の環境負荷低減性						3.2
LR1	LR1 エネルギー			0.40			3.8
1	1 建物外皮の熱負荷抑制	日本住宅性能表示基準「5-1断熱等性能等級」における等級6相当以上である。	5.0	0.20		-	5.0
2	2 自然エネルギー利用	-	2.0	0.10		-	2.0
3	3 設備システムの高効率化	BEF= 0.80	4.0	0.50		-	4.0
	集合住宅以外の評価		4.0	1.00		-	
	集合住宅の評価		3.0	0.20		-	3.0
4	4 効率的運用						
	集合住宅以外の評価			-		-	
4.1	4.1 モニタリング	-		-		-	
4.2	4.2 運用管理体制	-		-		-	
	集合住宅の評価		3.0	1.00		-	
4.1	4.1 モニタリング	-	3.0	0.50		-	
4.2	4.2 運用管理体制	-	3.0	0.50		-	
LR2	LR2 資源・マテリアル			0.30			2.9
1	1 水資源保護		2.2	0.20		-	2.2
1.1	1.1 節水		1.0	0.40		-	
1.2	1.2 雨水利用・雑排水等の利用		3.0	0.60		-	
1	1 雨水利用システム導入の有無	-	3.0	1.00		-	
2	2 雑排水等利用システム導入の有無	-	-	-		-	
2	2 非再生性資源の使用量削減		3.0	0.60		-	3.0
2.1	2.1 材料使用量の削減	-	2.0	0.10		-	
2.2	2.2 既存建築躯体等の継続使用	-	3.0	0.20		-	
2.3	2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.20		-	
2.4	2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	床の下地: 府内産木材、外壁: 断熱材	4.0	0.20		-	
2.5	2.5 持続可能な森林から産出された木材	-	2.0	0.10		-	
2.6	2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	-	3.0	0.20		-	
3	3 汚染物質含有材料の使用回避		3.3	0.20		-	3.3
3.1	3.1 有害物質を含まない材料の使用	-	3.0	0.30		-	
3.2	3.2 フロン・ハロンの回避		3.5	0.70		-	
1	1 消火剤	-	-	-		-	
2	2 発泡剤(断熱材等)	ODP=0、GWP=3の発泡剤を用いた断熱材を採用。	4.0	0.50		-	
3	3 冷媒	-	3.0	0.50		-	
LR3	LR3 敷地外環境			0.30			3.0
1	1 地球温暖化への配慮	ライフサイクルCO2排出率87%	3.5	0.33		-	3.5
2	2 地域環境への配慮		2.8	0.33		-	2.8
2.1	2.1 大気汚染防止	-	3.0	0.25		-	
2.2	2.2 温熱環境悪化の改善	-	3.0	0.50		-	
2.3	2.3 地域インフラへの負荷抑制		2.2	0.25		-	
1	1 雨水排水負荷低減	-	3.0	0.25		-	
2	2 汚水処理負荷抑制	-	3.0	0.25		-	
3	3 交通負荷抑制	-	2.0	0.25		-	
4	4 廃棄物処理負荷抑制	-	1.0	0.25		-	
3	3 周辺環境への配慮		2.7	0.33		-	2.7
3.1	3.1 騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40		-	
1	1 騒音	-	3.0	1.00		-	
2	2 振動	-	-	-		-	
3	3 悪臭	-	-	-		-	
3.2	3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制		3.0	0.40		-	
1	1 風害の抑制	-	3.0	0.70		-	
2	2 砂塵の抑制	-	-	-		-	
3	3 日照障害の抑制	-	3.0	0.30		-	
3.3	3.3 光害の抑制		1.6	0.20		-	
1	1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	-	1.0	0.70		-	
2	2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	-	3.0	0.30		-	

CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版 追補版

看護学校整備事業 学生寮 建設工事

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
Q2 サービス性能															
1.2.3 内装計画	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
1.3.1 維持管理に配慮した設計	4.0	-	-	○	○	-	-	○	-	○	-	-	-	-	-
1.3.2 維持管理用機能の確保	2.0	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	○	-	-
2.4.1 空調・換気設備	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.2 給排水・衛生設備	1.0	1.0	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.3 電気設備	1.0	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.5 通信・情報設備	2.0	-	-	-	○	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-
Q3 室外環境(敷地内)															
1 生物資源の保全と創出	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2 まちなみ・景観への配慮	3.0	-	2.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	1.0	-	-	-	-	-	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-
3.2 敷地内温熱環境の向上	5.0	-	-	1.0	-	-	-	-	-	2.0	2.0	-	-	-	-
LR1 エネルギー															
2 自然エネルギー利用	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR2 資源・マテリアル															
1.2.2 給排水等再利用システム導入の有無	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.1 材料使用量の削減	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 有害物質を含まない材料の使用	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR3 敷地外環境															
2.2 温熱環境悪化の改善	8.0	-	1.0	-	-	3.0	-	-	-	1.0	3.0	-	-	-	-
2.3.3 交通負荷抑制	1.0	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	1.0	-	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.2.2 砂塵の抑制	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

主な指標

Q1 室内環境

2.1.3 外皮性能

窓システムSC	窓の日射熱取得率(η)			
U値(W/m ² K)	窓システム	屋根	外壁	床
住戸部分 窓システムU値 3.6	外皮UA値 0.5	ηAQ 1.3	ηAH 0.3	
昼光率 2.0%				
自然換気有効開口面積率 25.0%				

3.1.1 昼光率

4.2.2 自然換気性能

Q2 サービス性能

1.1.1 広さ・収納性

1.1.2 高度情報通信設備対応

1.2.1 広さ感・景観

1.2.2 リフレッシュスペース

2.2.1 躯体材料の耐用年数

2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔

2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔

2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔

3.1.1 階高のゆとり

3.1.2 空間の形状・自由さ

3.2 荷重のゆとり

Q3 室外環境(敷地内)

1 生物資源の保全と創出

3.2 敷地内温熱環境の向上

LR1 エネルギー

1 建物外皮の熱負荷抑制

2 自然エネルギー利用

3 設備システムの高効率化

非住宅部分

集合住宅の評価

LR2 資源・マテリアル

1.2.1 雨水利用システム導入の有無

2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用

2.5 持続可能な森林から産出された木材

3.2.1 消火剤

3.2.2 発泡剤(断熱材等)

3.2.3 冷媒

LR3 敷地外環境

2.2 温熱環境悪化の改善

外構緑化指数	12%	建物緑化指数	0%
空地率	58%	水平投影面積率	0%
		地表面対策面積率	7%
		舗装面積率	51%

BPI/BPI _{in}	対象外	断熱等性能等級	等級6以上 相当
自然エネルギー直接利用量	0 MJ/年m ²	採光を満たす教室数	0.0%
		通風を満たす教室数	0.0%
		太陽光	7.9kW
		太陽熱等	0kW
		蓄電池	0kW
BEI/BEI _{in}	再エネ有	-	無
一次エネルギー削減率	再エネ有	20%	無
		20%	-

雨水利用率	0.0%			
特定調達品目	断熱材	エコマーク商品	-	自治体指定の特定品目等 府内産木材
使用比率	0.0%			
オゾン層破壊係数(ODP)	地球温暖化係数(GWP)			
オゾン層破壊係数(ODP)	0	地球温暖化係数(GWP)	3	
オゾン層破壊係数(ODP)	地球温暖化係数(GWP)			

見付面積比	82%	隣接間隔指標Rw	0.79
地表面対策面積率	7.0%	屋根面対策面積率	0.0%
		外壁面対策面積率	0.0%
見付面積S _b	551m ²	卓越風向と直交する最大敷地幅W _a	66.36 m
		基準高さH _b	10.55 m
緑地	198m ²	水面	m ²
		保水性対策面	m ²
		高反射対策面	m ²
		再帰性反射対策面	m ²